

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自律」「協調」「進取」の校訓の下、自分自身で考え、行動できる人、他の人のことを考えられる優しい人、進んで新しいことに取り組める人の育成を行う。
1 基礎学力の充実で、確かな学力を身につけ、各自の将来の可能性を広げる。
2 一人ひとりの生徒に寄り添いながらキャリア教育を計画的に実施し、自らの目標を、自ら切り拓くことができる、社会の中でたくましく生きる力を育成する。
3 学校生活の充実、活性化により、集団における規範意識、社会性を身につけ、よりよい社会の構成員を育成する。

2 中期的目標

1 基礎学力の充実 (1) 「わかる授業、充実した授業」をめざし、授業改善に取り組む。 ア ICT を活用した取組みを推進し、公開授業や研究授業を効果的に活用した授業改善を組織的に取り組む。 イ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援や遠隔授業、通信教育など、実態に応じた学習支援を充実させる。 ウ 幅広い知識と教養を身につけ、新たな学習への意欲を高揚できるよう、1人1台端末を効果的に活用する。 ※学校教育自己診断(生徒)における、授業内容のプラス評価、令和10年度には80%以上を目標とする。(R5:77.1% R6:78.7% R7:73.8%) ※授業アンケートにおける、授業分析・生徒意識のプラス評価、令和10年度には93%・90%以上を目標とする。 (R5:91.2%・86.7% R6:90.6%・85.7% R7:90.7%・86.6%) 2 キャリア教育の計画的実施による、たくましく生きる力の育成。 (1) 「総合的な探究の時間」とLHR等を有機的に連携させ、キャリアパスポートを用いたキャリア教育を実施する。 ア 各学年の計画から3年間を見通した計画に取り組み、自主性・自律性を育成するキャリア教育を実施する。 イ 教育産業を効果的に活用し、自らの人生や新しい社会を切り拓く力を育成する。 ※学校教育自己診断(生徒)における、進路関係のプラス評価、令和10年度には90%以上を目標とする。(R5:86.4% R6:90.3% R7:85.4%) (2) 生徒個々の意欲・能力を伸ばし、進路実現の可能性を拡大する。 ア 学年・教科・分掌の連携を図り、進路別のゼミなどを通じて各自の希望進路が実現できる能力を育成する。 イ 就職・進学講習、各種検定等学習機会の充実を図る。 ※学校紹介就職決定率100%を維持する。(R5:100% R6:100% R7:100%) 3 教育活動の充実で、規範意識と社会性を身につけた、よき社会の構成員の育成と魅力の発信。 (1) 学校行事、部活動の活性化を図り、規範意識と社会性を育成する。 ア 生徒会活動、学校行事、部活動を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。 イ 授業・HR・行事におけるあらゆる場面において、市民としての自立と公民意識の育成を図る。 ウ あいさつ、時間厳守、身だしなみ、交通マナー等規範意識の醸成を図る。 エ 地域連携活動への参加を促進し、各自が自信と誇りを高めながら社会性を育成する。 オ 学校の教育活動について積極的な情報発信に取り組む。 ※学校教育自己診断(生徒)における「社会のルールを学ぶ機会がある」のプラス評価、令和10年度には90%以上を目標とする。 (R5:85.3% R6:85.4% R7:88.0%) (2)安全で安心な学校生活の推進 ア 人権教育の取り組みを通して生命やお互いの大切にする態度の育成する イ 健康の保持・増進にかかる取り組みを推進し、健康教育の充実を図る。 ウ 教育相談体制を構築し、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組む。 エ 様々な課題を抱える生徒支援に向けて関係機関と連携を図り組織的な対応を図る。 4 学校運営組織の充実と働き方改革 (1) 学校運営組織の見直しを行い、学校全体の教育力の向上を図る。 ア 教員同士の連携、協働的な活動が円滑に行われるように取り組む。 ※学校教育自己診断(教職員)における、「学校の教育活動について日常的に話し合っている」のプラス評価95%以上を維持する。 (R5:94.2% R6:93.9% R7:97.8%) (2) 教職員の健康保持のため、校務運営の効率化を図り、働き方改革をいっそう推進する。 ア 一斉退庁日の活用、ノークラブデーの徹底、業務改善により時間外勤務時間の縮減を図る。 イ 職場の整理整頓・服務規律の徹底・危機管理体制の構築など働く環境の改善を図る。 ※年間の時間外在校時間720時間を超える教職員をゼロにする。(R7:3人) ※年間の時間外在校時間360時間を越える教職員を前年度より減少させ、令和10年度にはゼロにする。(R7:21人)
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容		評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 基 礎 学 力 の 充 実	(1) 授業改善への取り組み	(1) ア	本校の課題を各学年・各教科・分掌等で共有し、学校全体として取り組む	学校教育自己診断(教員)における「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」のプラス評価を前年度以上とする。[65.1%]	
	ア 授業改善の組織的な取り組み		教員相互の授業見学によって多様な授業スタイルを共有する	授業見学週間を年2回以上実施	
	イ 1人ひとりの教育的ニーズに応じた支援	イ	1人ひとりの興味関心意欲に応じた授業を展開する	学校教育自己診断(教員)における「生徒の学習意欲に応じて学習指導の方法や内容について工夫している」のプラス評価を前年度以上とする。[93.2%] 学校教育自己診断(生徒)における「授業はわかりやすく楽しい」のプラス評価を前年度以上とする。[66.1%]	
			図書室の環境を整え授業等で活用する	学校教育自己診断(生徒)における「図書室を一度でも利用したことがある」の図書室利用率を前年度以上とする。[35.4%]	
	ウ 1人1台端末の効果的な活用	ウ	1人1台端末を効果的に活用し、生徒の学習意欲を高める	学校教育自己診断(生徒)における「1人1台端末を効果的に活用している」のプラス評価を前年度以上とする。[86.7%]	
2 た く ま し く 生 き る 力 の 育 成	(1) 計画的なキャリア教育	(1) ア	3年間を見通した計画的なキャリア教育を行う。	学校教育自己診断(教員)における「生徒が望ましい勤労観、職業観をもつことができるように系統的なキャリア教育を行っている」のプラス評価 90%以上を維持する。[93.2%]	
	ア 3年間を見通した計画と取り組み				
	イ 教育産業を効果的に活用した取り組み	イ	外部の人材やキャリアパスポートを活用し、インターンシップ実施等、より広い観点からキャリア教育を行う。	学校教育自己診断(生徒)における「自分の将来の進路や生き方について考える機会がある」[85.4%] 「進路についての情報を知らせてくれる」[87.2%] の進路関係のプラス評価を前年度以上とする。	
	(2) 生徒の意欲・能力を伸ばす	(2) ア	進路希望に合った学力の向上、意識の向上をめざした教育活動を積極的に行う。	学校教育自己診断(教員)における「生徒1人ひとりが興味、関心、適性に応じて進路選択ができるようにきめ細かい指導を行っている」のプラス評価 90%以上を維持する。[91.1%]	
	ア 進路希望別ゼミの充実				
	イ 就職・進学講習、各種検定等の学習機会の充実	イ	「社会人講座」等の就職前指導の実施、各種検定のための講習を実施。	学校紹介就職決定率 100%を維持する。	

府立西寝屋川高等学校

3 規 範 意 識 と 社 会 性 を 身 に つ け た よ き 社 会 の 構 成 員 の 育 成	(1)学校行事、部活動の 活性化	ア	新入生全員加入期間を複数回実施するな ど部活動参加促進の取組みを進める。	1年生の部活動加入率 40%以上を維持す る。[42.3%]	
	ア 集団の中で人と調和 しながら活動できる 能力の育成		授業規律の確保等、学習を重んじる姿勢、 社会人としての規範を身につける指導を 丁寧に行い、生徒指導に対する納得感を高 める。	学校教育自己診断（生徒）「学校生活につ いて、先生の指導は納得できる」のプラス 評価を 70%以上にする。[59.1%] 学校教育自己診断（教員）における「学校 では、カウンセリングマインドを取り入 れた生活指導を行っている」のプラス評 価を前年度以上とする。[71.1%]	
	イ 市民としての自立と 公民意識の育成	イ	避難訓練等を通じて防災・災害対応につい ての意識を高め、自助・共助・公助の大切 さを学ばせる。	学校教育自己診断（生徒）における「学校 で、事件・地震や火事などが起こった場 合、どう行動したらよいか知らされてい る」のプラス評価 90%以上を維持する。 [92.7%]	
			授業・HR のみならず、学校行事の中でも公 民教育（主権者教育）を展開する。	学校教育自己診断（生徒）「生徒会活動や HR 活動は活発に行っている」のプラス評 価を前年度以上にする。[65.1%]	
	ウ あいさつ、時間厳守、 身だしなみ、交通マ ナー等規範意識の醸 成を図る。	ウ	交通安全週間の定期的な実施で、交通マナ ーの徹底を図る。	学校教育自己診断（生徒）「社会のルール を学ぶ機会がある」のプラス評価を前年 度以上にする。[88.0%]	
			あいさつ、時間厳守、身だしなみなど社会 性を身につけるための取組みを進める	学校教育自己診断（生徒）における「挨拶 は自分からするように心がけている」の プラス評価を前年度以上とする。 [73.2%] 年間の遅刻回数このべ数を 2000 回以内と する。[2072 回]	
	エ 地域連携活動参加を 促進し、自信と誇り を高める	エ	地域の行事等へ積極的に参加し、地域連携 を進めるとともに、生徒の自尊感情の育成 を図る。	地域のあいさつ運動参加 近隣小中学校との部活動体験や交流 寝屋川支援学校との交流 [いずれも年 1 回以上]	
			行事公開、授業公開により、開かれた学校 づくり、誇りを持てる学校づくりを進め る。	地域・保護者に向けた授業公開を年間 1 回以上実施し、開かれた学校づくりを進 める。[1 回]	
	オ 学校の教育活動につ いて積極的な情報発 信に取り組む	オ	SNS を積極的に活用した情報発信と、学校 HP を活用して情報提供をすることで、地 域・保護者へ教育活動に対する理解の促進 を図る。	学校教育自己診断（保護者）「学校は教育 情報について提供の努力をしている」の プラス評価を前年度以上とする。[79.4%]	
	(2)安全で安心な学校 生活の推進	(2) ア	人権を尊重し、差別や偏見を許さない教育 環境を実現する。 HR だけでなく、教科指導の中でも人権教 育を進める。	学校教育自己診断（生徒）における「HR や集会や授業などで人権について学ぶ機 会がある」のプラス評価を前年度以上と する。[79.9%]	
	ア 人権教育の取り組み				
	イ 保健・安全・衛生教 育に取り組む	イ	健康診断、救急講習等を通して自分の健康 は自分で守るという意識の向上を図る。	救急講習会（生徒対象・教員対象）を年 1 回開催する。	
	ウ いじめの防止・教育 相談体制の構築	ウ	いじめの予防・早期発見・早期解決に向け て組織的な対応を図る。	学校教育自己診断（教員）における「い じめが起こった時、組織的に対応できる 体制が整っている」のプラス評価 90%以 上を維持する。[90.9%] 学校教育自己診断（生徒）における「先 生はいじめなど私たちが困っていること について真剣に対応してくれる」のプラ ス評価を前年度以上とする。[77.3%]	

府立西寝屋川高等学校

	エ 様々な課題を抱える生徒支援に向けて関係機関と連携を図り組織的な対応を図る	エ	教育相談体制を構築し、SC、SSW、関係諸機関との連携を推進する	学校教育自己診断（教員）における「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」のプラス評価を前年度以上とする。[75.6%] 学校教育自己診断（生徒）における「担任の先生意外にも気軽に相談することができる先生がいる」のプラス評価を前年度以上とする。[74.7%]	
4 学校運営組織の充実と指導力向上	(1)学校の教育力の向上	(1)	ICTを活用しながら情報共有を行うだけでなく、教員同士の会話を増やし連携する。	学校教育自己診断（教員）における「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」のプラス評価 95%以上を維持する。[97.8%]	
	ア 教員同士の連携、協働的な活動				
	(2)働き方改革の推進	(2)	教職員の意識改革と会議の精選を図る。	会議回数を前年度以下にする。 [職員会議 18 回・運営委員会 24 回]	
	ア 業務改善による時間外勤務時間の縮減		働き方改革を推進し、時間外勤務時間の縮減を図る。	ひと月当たり 45 時間以上の時間外勤務者ののべ人数を前年度より削減する。 [133 人] 年間時間外勤務 720 時間以上の教職員をゼロにする。[3 人]	
	イ 働く環境の改善	イ	職場の整理整頓を行い、危機管理体制を構築し、働く環境を改善する	教職員全員が職場の整理整頓を、大掃除を年 1 回以上行う。	
			教職員同士が助け合い、ストレスの少ない職員集団を作る	職場環境のストレス度（総合健康リスク）を前年度以下にする。[98]	